

私にとっての差別問題

坂井市立坂井中学校 3年 宮川 陽子

「差別問題」私は、この言葉を聞いて、すぐにある人の名前が思い浮かびました。それは、今年の7月に急に亡くなったマイケル・ジャクソンさんです。

その出来事は、全世界を注目させました。それから二週間位に渡り、ニュースや新聞では、今までの彼の人生のことを大きく取り上げました。私は、はじめあまり彼のことをよく知らなかったけれど、このことで彼のことをよく知ることができました。彼は、世界のエンターテイナーとして活躍し、また黒人歌手として人種差別をなくそうといろんな活動を行っていました。彼の歌には、人種差別のことについて歌っているものもあります。しかし、こうした取り組みの反面、彼は整形を重ね、自身の肌の色を変えていくこともしていました。

人種差別は、彼に大きなコンプレックスを与え、人種差別を批判しながらも、自身は、白人に近づこうと整形するという、屈折した性格にしてしまうほど、大きいものだと知りました。

このような差別問題は、日本にも存在するのでしょうか。私は、自分の住んでいるこの

国にも、もしかしたらこんな大きな問題が潜んでいるのではないかと、とても心配になり調べてみました。すると日本にも差別問題は存在しました。部落差別、アイヌの人々への差別、在日コリアンへの差別などです。私は、こんなにたくさんの差別問題があることについて驚き、差別問題への関心がより深まりました。

そんなある日、私は一つの詩を、公民の教科書の中でみつけました。その詩の題名は、「差別問題をのりこえて」というもので、部落差別で差別されている女の子が、その子のお姉ちゃんに書いたものでした。その内容は、部落民というだけで結婚をなかなか認めてもらえなかったその子のお姉ちゃんの努力が書かれていました。私の心に、この詩の中のこれらの言葉が強く印象に残りました。「自分自身の人格も見てもらえず部落民だと反対された。」「部落民に生まれたことをどんなにかのろったことでしょう。」「差別をして何の価値があるのでしょうか。」

この詩を読んでいたら、とても悲しく切なくなってきました。一つ一つの言葉がとても重く、なぜこんな差別があるのだろう、なぜ生まれた場所が違うだけでこんなものが起こるのだろうと、言葉では言い表せないような感情が私の中にわきあがりました。

またもう一つこの詩について驚いたことがあります。それは、この詩を書いた子は、まだ中学生の子だったということです。私と同じくらいの年齢なのに、大人みたいな感情をもっていました。平和に普通にたいした悩みもなく育ってきた私とは全然違うということが分かりました。でも、もしかしたら、それは本人が望んではやく大人のような感情をもったのではなく、差別されてきたから、はやく大人にならなくてはいけなかったのではなかったのかと思うと、一層切なくなり、私がこうして平穏に暮らしていることが、とても

申し訳なくなってきました。

私は、このような事実を知り、どうしたらいろんな差別問題をなくせるのか、いつになったら差別問題はなくなるのか、私に一体どんなことができるか考えるようになりました。しかし、その答えをみつけ出すのはとても難しく、簡単にできることではありませんでした。その時改めて差別問題は難しいものなんだと実感させられました。

そして、私はやっと一つの答えを自分の中で見つけることができました。それは、人を人種や部落といった大きな固まりとしてみるのではなく、個人として尊重し、互いに認め合って付き合っていけば、差別問題というものはなくなっていくのではないのかということです。それは、なかなか簡単にいくことではありません。なぜなら、自分の中にある固定観念を取り払うということは、なかなかできないからです。しかし、現在それができる人が増えてきていると思います。その例が、アメリカのオバマ大統領の就任です。彼は黒人だけれど、自身の人格が評価され見事大統領となることができました。これは、彼の人格を黒人ということを除いてみられる人が多くなってきた証拠ではないでしょうか。私は、このような人達が増えて、世界の人達全員がそうなれたら「差別問題」というものは消えると思います。そんな大きい夢をみながら、私はこれから、個人を尊重し、相手のよさを認めながら付き合える人になれるように努めていきたいと思っています。